

令和 6 年度 宮崎県立農業大学校外部評価委員会 議事録

令和 6 年度第 1 回宮崎県立農業大学校外部評価委員会を開催しましたので、お知らせいたします。

会議の概要

1. 日 時

令和 6 年 5 月 2 4 日（金） 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0

2. 場 所

宮崎県立農業大学校 会議室

3. 出資者

（1）外部評価委員 10 名

香川憲一委員、梶原正太郎委員、河野幸代委員、河野英樹委員、黒木寛市委員、坂本康子委員、高橋寛委員、戸切誠人委員、永友薫委員、西田和夫委員

（2）県立農業大学校職員 10 名

校長、副校長（総括）、副校長（教育）、総務課副主幹、農学科長、農学科教授、畜産学科長、畜産学科教授、教務学生課准教授、教務学生課主任技師

4. 議事の内容

【説 明】学校概要及び学校評価の概要等について（事務局より）

【協 議】学校教育方針及び教育目標、令和 5 年度評価結果及び令和 6 年度目標と取組計画等について

【その他】評価項目の見直し、外部評価委員会の開催時期の見直し等について

5. 要旨（委員からの主な意見）

（1）評価基準の見直しについて

- ・内部評価と外部評価の結果の違いについて、評価基準の考え方により、内部評価「B」→外部評価「A」のケースが散見されている。数値目標の設定が高くなっているためか、内部評価結果が厳しいように思うため、検討をした方が良い。【今年度見直し済み】

（2）教育内容や学生指導、評価結果等について

- ・学校の Facebook は誰に向けての情報発信なのか？掲載方法の工夫も必要ではないか？
⇒基本的には、農大校の職員が配信しており、「農大校ファン」を増やす視点での投稿が多い状況。農大校（各学科）での様子や各種行事等の情報発信をしているが、今後は、高校生向けの情報発信（学生募集を目的とした情報発信）も工夫すべきと考えている。
- ・内部評価と外部評価の結果の違いはどのように理解すればよいのか？
⇒昨年度までの評価基準の考え方により、内部評価「B」→外部評価「A」のケースが散見されていた。そこで、今年度から評価基準の見直しを提案しているところであり、これにより昨年度までの状況は解消されと考えている。
- ・学生のタブレット保有状況についてはいかがか？
⇒令和 6 年度入学生までは学校からの貸与だが、令和 7 年度の入学生からは、高校からの個人所有に切り替わる予定。学校としても、学生の指導力向上に寄与できるように職員のスキルも向上させる必要があると考えている。
- ・学生評価（講義に対する満足度調査）の評価が少し低くなっていることはどのように（何が要因と）認識しているか？
⇒調査結果を踏まえて、教員側が講義に対する授業方法の工夫と改善に努めるべきと認識している。また、学生自身の「考える力の育成」が必要不可欠と考えている。

(3) その他（評価項目の見直し、外部評価委員会の開催時期の見直し）

(1) 学校評価における「内部評価基準」の考え方 **【承認】**

① 数値目標がある場合（見直し）

A評価：達成度 90%以上

B評価：達成度 70%以上 89%未満

C評価：達成度 50%以上 69%未満

D評価：達成度 50%未満

② 数値目標がない場合（令和5年度同様）

A評価：期待を上回る特筆する成果がある

B評価：概ね期待される成果がある

C評価：期待される成果を十分に上げられなかった

D評価：得られるはずだった成果をほとんど上げられなかった

(2) 評価項目の見直し（20項目 ⇒9項目） **【承認】**

令和5年度まで、各学科等に細分化され20項目と非常に多く、評価検討等に時間を要していたことから、学校全体での評価項目を9項目に見直す。

令和6年度は、移行期間として、20項目の目標及び取組計画を調整し、9項目に修正して対応する。

(3) 外部評価委員会の開催時期の見直し（年2回 ⇒年1回） **【承認】**

令和5年度まで、年間2回開催していたが、外部評価委員の対応軽減及び本校職員の負担軽減を目的に年間1回の開催に見直し、効率的な委員会活動を目指す。

今後の開催時期については、年度末の正確な取組実績・成果が判明した翌年度当初に開催し、確定した実績・成果に基づいた評価を行う。